



モグラ便り

2022年 春季号



目次

- ◆ 巻頭言 鶴田諭一郎・・・01
- ◆ 2022年新体制について・・・03
- ◆ 冬季全国生産者大会報告・・・05
- ◆ 産地訪問レポート・・・17
- ◆ 大矢野有機様新センター落成式・・・24
- ◆ オランダ農業の今(第3回)・・・25
- ◆ 有参協活動報告・セミナー・・・30
- ◆ 新人産地研修報告・・・32
- ◆ 故 武田茂さん(山形モグラ会)の特集・・・37
- ◆ 登録品種の自家増殖に係る許諾手続き・・・41
- ◆ 品質管理部 新コラム マルタの台所・・・43
- ◆ モグラ NEWS (山本会長受賞報告)・・・44
- ◆ 新入社員紹介・退職挨拶・・・45
- ◆ マルタファンクラブ HP・編集後記・・・48



未来につながる種を蒔こう！

代表取締役社長執行役員 鶴田諭一郎

日頃より当社の事業活動にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。

コロナ禍のまん延防止等重点措置も解除となり経済活動が復活するかに見えましたが、ロシアによるウクライナ侵攻が勃

発し、グローバルなサプライチェーンの問題がコロナ以上に素早く、我々の生活や事業にも影響を及ぼし始めております。確実に世界は狭くなっており、ウクライナの問題も決して他人事ではなく、一日も早い戦争の終結を願ってやみません。

マルタはこの3月末で46期目の決算を迎えました。この場をお借りして、改めて日頃のご無沙汰をお詫びするとともに、産地・加工所・取引先の皆様、関係各位のご支援・ご協力で無事に決算を迎えられたこと、心から御礼申し上げます。別頁で速報値を載せておりますが、おかげさまで4年連続の増収を確保し、利益も計画を超え前年並みになりそうです。

また昨年45周年記念誌を発行するにあたって、当社の経営理念を見直ししました。まず、創業来のスローガンであった「有機農業を農業の主流に」を「創業の志」と再定義しました。創業者である鶴田源志と鶴田志郎の「志」でもある、土作りと味にこだわり、有機農業をはじめとした持続可能な農業経営の確立を目指す、という旗印は不変の目標であります。

その上で、新しい経営理念は「大地とともに未来へつなぐ」としました。私たちマルタの使命は、「農業を通して、健全な社会の発展に欠かせない食と農、そしてかけがえない地球環境と生態系を次世代につないでいくこと」であります。これを社員一同しっかりと胸に刻み、産地・生産者の皆様とともに、川上と川下をつなぐ流通コーディネーターとしての機能を磨き、産地サポートを拡充してまいります。

そして、今年度、第47期のマルタの事業方針は「未来につながる種を蒔く」です。

昨年度実施した組織や事業の総点検を経て、コロナ禍もあり、なかなかできなかった商品や企画の新規提案と、産地・販売先の皆様とのコミュニケーションアップを意識し、事業の未来につながる施策の立案と着手の一年とします。

最も大きな命題は、今まで以上に産地に寄り添ったサポートとネットワークの拡充、サプライチェーンの強化・涵養を進めることです。

昨年2021年度は北海道の高温干ばつによる大不作が象徴的でしたが、外国人実習生が入ってこないことによる労働力不足からの作付け減、高齢化や後継者不足による廃業など、農産物の安定供給に影響するリスクが大きく露呈した年でした。加えて、コロナ禍や世界的なインフレ、ウクライナ問題の影響も受け、輸入農産物や生産資材の供給にも滞りが生じ、それが国内農産物の生産・供給を更に混乱させるという状況が起きています。農

産物の価格が上がることは歓迎すべきことですが、それ以上にコスト高・人手不足・自然災害のリスク増が農業経営そのものを難しくし、更なる農業離れが進んでいくことを危惧します。

マルタも、安全で美味しい農産物の持続的な安定供給という命題に対して、今まで以上に本気で向き合っていく覚悟です。もっと生産現場に入り込み、産地の課題やお困りごとを聴いて理解していく必要があります。特に生産コストの増加をどう販売価格に転嫁できるか、情報の開示と対話を積み重ねて販売先の理解も得ていかなければなりません。現場の課題解決に向けて、産地の皆様とがっちりとり組みを深め、協働や協業を愚直に進めてまいります。そしてやはり、「共に新しい価値を創っていききたい」、そのための種蒔きを意識して行っていく一年にしたいと思います。引き続き、ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。